

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人真宗大谷学園

(2) 大学名

大谷大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒603-8143

京都府京都市北区小山上総町20番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タジマ ヒロシ) 但馬 弘 (平成28年12月19日)		
学長	(キゴシ ヤスシ) 木越 康 (平成28年4月1日)		
学部長	(セキグチ トシミ) 関口 敏美 (平成30年4月1日)		
学科長等 (教育学科)	(トミオカ リョウシュウ) 富岡 量秀 (平成30年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)
令和元年度に報告する内容 → (元)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考	
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学部 教育学科 初等教育コース 幼児教育コース 学士（教育学）	教育学・保育 学関係	4	130	—	520		
			50	—	200		
				80	—	320	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	人	人	人	人	人	人			
教育学科	130 () [-]	() () [-]	130 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
(初等教育コース)	50 () [-]	() () [-]	50 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
(幼児教育コース)	80 () [-]	() () [-]	80 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
志願者数	1088 () [-]	() () [-]	1309 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
教育学科	604 () [-]	() () [-]	753 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
(初等教育コース)	484 () [-]	() () [-]	556 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
(幼児教育コース)	1057 () [-]	() () [-]	1289 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
受験者数	589 () [-]	() () [-]	740 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
教育学科	468 () [-]	() () [-]	549 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
(初等教育コース)	313 () [-]	() () [-]	346 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
(幼児教育コース)	172 () [-]	() () [-]	199 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
合格者数	141 () [-]	() () [-]	147 () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]	() () [-]			
教育学科									1.07 倍		

B 入学者数	140	-	140	-				
	() () () () () () () ()	[] [] [] [] [] [] [] []						
(初等教育コース)	61	-	59	-				
(幼児教育コース)	79	-	81	-				
入学定員超過率 B/A	1.07		1.07					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、() 書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 転入学生は記入しないください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 - ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次 教育学科	140 [-] (-)	- [-] (-)	140 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
(初等教育コース)	61 [-] (-)	- [-] (-)	59 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
(幼児教育コース)	79 [-] (-)	- [-] (-)	81 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
2年次 教育学科	/		139 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
(初等教育コース)			61 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
(幼児教育コース)			78 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
3年次 教育学科	/		/		[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
(初等教育コース)					[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
(幼児教育コース)					[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
4年次 教育学科	/		/		/		[] [] () ()	[] [] () ()	
(初等教育コース)							[] [] () ()	[] [] () ()	
(幼児教育コース)							[] [] () ()	[] [] () ()	
計 教育学科	140 [-] (-)	- [-] (-)	279 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
(初等教育コース)	61 [-] (-)	- [-] (-)	120 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	
(幼児教育コース)	79 [-] (-)	- [-] (-)	159 [-] (-)	- [-] (-)	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	[] [] () ()	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	140 人	1 人	平成27年度	0 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人)
令和元年度	279 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人	
			平成28年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	(記入例) 就学意欲の低下(5人)、他の教育機関への転学(2名) [就職(1人)、除籍(2人)]
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
合 計		1 人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の数値を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の数値については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{140} = \boxed{0.71} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{279} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\#REF!}{0} = \boxed{\#REF!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	教員	准教授	講師	助教	助手		
自然生命系科目	生命のしくみと多様性	1・2・3・4前	2							兼1	
	自然と生物の科学	1・2・3・4後	2							兼1	
	地震と火山1	1・2・3・4前	2							兼1	
	地震と火山2	1・2・3・4後	2							兼1	
	地球科学1	1・2・3・4前	2							兼1	
	地球科学2	1・2・3・4後	2							兼1	
	地球環境と生命の共進化	1・2・3・4後	2							兼1	
	こころの科学	1・2前	2							兼1	
	人間理解の心理学	1・2後	2							兼1	
	スポーツと健康の科学1	1・2・3・4前	2							兼1	
	スポーツと健康の科学2	1・2・3・4後	2							兼1	
	脳とこころ	1・2・3・4前	2							兼1	
	障害者スポーツ論	1・2・3・4後	2							兼1	
	生涯スポーツ・レクリエーション活動	1・2・3・4後	2			1				兼1	
	スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前	2							兼1	
	障害者スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前	2							兼1	
	スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後	2							兼1	
	障害者スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後	2							兼1	
	カウンセリング	1・2・3・4前	2							兼1	
	身体活動Ⅰ	1・2・3・4前	1							兼2	
	身体活動Ⅰ(障害者スポーツ)	1・2・3・4前	1							兼1	
	身体活動Ⅱ	1・2・3・4後	1							兼2	
	身体活動Ⅱ(障害者スポーツ)	1・2・3・4後	1							兼1	
	人間関係と身体表現	1・2・3・4前	2			1				兼1	
	障害者・病者と共生	1・2・3・4前	2							兼1	
	現代総合科目	ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ)	1・2・3・4後	2							兼1
		ヨーロッパの宗教と文化(フランス)	1・2・3・4後	2							兼1
		現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後	2							兼1
		現代東南アジア事情	1・2・3・4後	2							兼1
		東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2							兼1
		近代日本とアジア	1・2・3・4後	2							兼1
		東アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2							兼1
		古都の歴史と文化	1・2・3・4前	2							兼1
		仏教と美術	1・2・3・4後	2							兼1
		インドの宗教と文化	1・2・3・4後	2							兼2
中国の宗教と文化		1・2・3・4後	2							兼1	
人と文化		2・3・4後	2							兼1	
教育学1		1・2・3・4前	2							兼1	
教育学2		1・2・3・4後	2							兼1	
ブッダに学ぶ		1・2・3・4前	2							兼1	
親鸞に学ぶ		1・2・3・4後	2							兼1	
部落差別と大谷派教団1		1・2・3・4前	2							兼1	
部落差別と大谷派教団2		1・2・3・4後	2							兼1	
部落差別と浄土真宗1		1・2・3・4前	2							兼1	
部落差別と浄土真宗2		1・2・3・4後	2							兼1	
部落史論1		1・2・3・4前	2							兼1	
部落史論2		1・2・3・4後	2							兼1	
反カースト運動論		1・2・3・4後	2							兼1	
アイヌ民族と共に		1・2・3・4前	2							兼1	
アジア侵略と宗教		1・2・3・4後	2							兼1	
非戦の系譜	1・2・3・4前	2							兼1		
仏教福祉論	1・2・3・4後	2							兼1		
歴史文化系科目	ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ) (未開講)	1・2・3・4後	2							兼1	
	ヨーロッパの宗教と文化(フランス) (未開講)	1・2・3・4後	2							兼1	
	現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後	2							兼1	
	現代東南アジア事情	1・2・3・4後	2							兼1	
	東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2							兼1	
	近代日本とアジア	1・2・3・4後	2							兼1	
	東アジアの宗教文化	1・2・3・4後	2							兼1	
	古都の歴史と文化	1・2・3・4前	2							兼1	
	仏教と美術	1・2・3・4後	2							兼1	
	インドの宗教と文化	1・2・3・4後	2							兼2	
	中国の宗教と文化 (未開講)	1・2・3・4後	2							兼1	
	人と文化	2・3・4後	2							兼1	
	教育学1	1・2・3・4前	2							兼1	
	教育学2	1・2・3・4後	2							兼1	
	ブッダに学ぶ	1・2・3・4前	2							兼1	
親鸞に学ぶ	1・2・3・4後	2							兼1		
部落差別と大谷派教団1	1・2・3・4前	2							兼1		
部落差別と大谷派教団2	1・2・3・4後	2							兼1		
部落差別と浄土真宗1	1・2・3・4前	2							兼1		
部落差別と浄土真宗2	1・2・3・4後	2							兼1		
部落史論1	1・2・3・4前	2							兼1		
部落史論2	1・2・3・4後	2							兼1		
反カースト運動論	1・2・3・4後	2							兼1		
アイヌ民族と共に	1・2・3・4後	2							兼1		
アジア侵略と宗教	1・2・3・4後	2							兼1		
非戦の系譜	1・2・3・4前	2							兼1		
仏教福祉論	1・2・3・4後	2							兼1		
諸課程科目	保育実習Ⅰ	3後		4	1					兼1	
	保育実習指導Ⅰ	2後	2	2						兼2	
	保育実習Ⅱ	3後	2	1						兼1	
	保育実習指導Ⅱ	3前	1	2						兼2	
	保育実習Ⅲ	3後	2	1	1					兼1	
	保育実習指導Ⅲ	3前	1	1	1					兼1	
	子どもの保健Ⅰa	1前	2							兼1	
	子どもの保健Ⅰb	1後	2							兼1	
	子どもの保健Ⅱ	2前	1							兼1	
	子どもの食と栄養	1前	2							兼1	
	保育実習Ⅰ	3後		4	1					兼1	
	保育実習指導Ⅰ	2後	2	1	1					兼2	
	保育実習Ⅱ	3後	2	1						兼1	
	保育実習指導Ⅱ	3前	1	2						兼2	
	保育実習Ⅲ	3後	2	1	1					兼1	
保育実習指導Ⅲ	3前	1	1	1					兼1		
子ども家庭支援論	3後	2							兼1		
子どもの保健Ⅰa (未開講)	1前	2							兼1		
子どもの保健Ⅰb	1後	2							兼1		
子どもの保健	1前	2							兼1		
子どもの保健Ⅱ	2前	1							兼1		
保育の計画と評価	3前	2		1					兼1		
子どもの食と栄養	1前	2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	教員	准教授	講師	助教	助手		
自然生命系科目	生命のしくみと多様性	1・2・3・4前	2							兼1	
	自然と生物の科学	1・2・3・4後	2							兼1	
	地震と火山1	1・2・3・4前	2							兼1	
	地震と火山2	1・2・3・4後	2							兼1	
	地球科学1	1・2・3・4前	2							兼1	
	地球科学2	1・2・3・4後	2							兼1	
	地球環境と生命の共進化	1・2・3・4後	2							兼1	
	こころの科学	1・2・3・4前	2							兼1	
	人間理解の心理学	1・2・3・4後	2							兼1	
	スポーツと健康の科学1	1・2・3・4前	2							兼1	
	スポーツと健康の科学2	1・2・3・4後	2							兼1	
	脳とこころ	1・2・3・4前	2							兼1	
	障害者スポーツ論	1・2・3・4後	2							兼1	
	生涯スポーツ・レクリエーション活動	1・2・3・4前	2							兼1	
	スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前	2							兼1	
	障害者スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前	2							兼1	
	スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後	2							兼1	
	障害者スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後	2							兼1	
	カウンセリング	2・3・4後	2							兼1	
	身体活動Ⅰ	1・2・3・4前	1							兼2	
	身体活動Ⅰ(障害者スポーツ)	1・2・3・4前	1							兼1	
	身体活動Ⅱ	1・2・3・4後	1							兼2	
	身体活動Ⅱ(障害者スポーツ)	1・2・3・4後	1							兼1	
	人間関係と身体表現	1・2・3・4前	2					1		兼1	
	障害者・病者と共生	1・2・3・4前	2							兼1	
	現代総合科目	ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ) (未開講)	1・2・3・4後	2							兼1
		ヨーロッパの宗教と文化(フランス) (未開講)	1・2・3・4後	2							兼1
		現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後	2							兼1
		現代東南アジア事情	1・2・3・4後	2							兼1
		東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2							兼1
		近代日本とアジア	1・2・3・4後	2							兼1
		東アジアの宗教文化	1・2・3・4後	2							兼1
		古都の歴史と文化	1・2・3・4前	2							兼1
		仏教と美術	1・2・3・4後	2							兼1
		インドの宗教と文化	1・2・3・4後	2							兼2
中国の宗教と文化 (未開講)		1・2・3・4後	2							兼1	
人と文化		2・3・4後	2							兼1	
教育学1		1・2・3・4前	2							兼1	
教育学2		1・2・3・4後	2							兼1	
ブッダに学ぶ		1・2・3・4前	2							兼1	
親鸞に学ぶ		1・2・3・4後	2							兼1	
部落差別と大谷派教団1		1・2・3・4前	2							兼1	
部落差別と大谷派教団2		1・2・3・4後	2							兼1	
部落差別と浄土真宗1		1・2・3・4前	2							兼1	
部落差別と浄土真宗2		1・2・3・4後	2							兼1	
部落史論1		1・2・3・4前	2							兼1	
部落史論2		1・2・3・4後	2							兼1	
反カースト運動論		1・2・3・4後	2							兼1	
アイヌ民族と共に		1・2・3・4後	2							兼1	
アジア侵略と宗教		1・2・3・4後	2							兼1	
非戦の系譜	1・2・3・4前	2							兼1		
仏教福祉論	1・2・3・4後	2							兼1		
諸課程科目	保育実習Ⅰ	3後		4	1					兼1	
	保育実習指導Ⅰ	2後	2	2							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	准教授	講師	助教	助手		
諸課程科目	乳児保育	1後			2						兼1
	乳幼児心理学	2前			2		1				
	社会的養護内容	3前			2		1				
	家庭支援論	3前			2						兼1
	青年心理学	3前			2						兼1
	保育相談支援	3後			2						兼1
	保育心理士実習	4後			1	1		1			
	保育心理士実習指導	4後			1	1		1			
	臨床心理学	3後			2						兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	准教授	講師	助教	助手			
	乳児保育	1前			2							兼1
	乳児保育 I	1後			2							兼1
	乳児保育 II	2前			2							兼1
	子どもの健康と安全	1後			2							兼2
	乳幼児心理学	2前			2		1					
	社会的養護内容	3前			2		1					
	社会的養護演習	3前			2		1					兼1
	家庭支援論	3前			2							兼1
	子ども家庭支援の心理学	3後			2			1				兼1
	青年心理学	3前			2							兼1
	保育相談支援	3後			2							兼1
	保育心理士実習	4後			1	1		1				
	保育心理士実習指導	4後			1	1		1				兼1
臨床心理学	3後			2							兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手		
共通基礎科目	総合科目 人間学Ⅰ	1前・後	4			1						兼3
	人間学Ⅱ	2・3・4前・後	4									兼13
	大学導入 学びの発見	1前	2			1						
	必修外国語 英語Ⅰ	1前・後	4									兼7
	英語Ⅱ	2前・後	4									兼8
学科専門科目	演習	小学校教育学演習Ⅰ	1前・後	4		1	1					兼1
		小学校教育学演習Ⅱ	2前・後	4			3					
		小学校教育学演習Ⅲ	3前・後	4			6	3	1			
		小学校教育学演習Ⅳ	4前・後	4			6	3	1			
	概論	教育原論(小)	1後	2			1					
		仏教と教育(初等)	2後	2			1					
	A	教育学概論Ⅰ	3前	2			1					
		教育学概論Ⅱ	3後	2			1					
		特別支援教育概論(初等)	2前	2								兼1
		教育人間学Ⅰ	3前	2								兼1
		教育人間学Ⅱ	3後	2								兼1
	B	教職入門(小)	1前	2			1					
		教育心理学(小)	1後	2					1			
		発達心理学(小)	1後	2			1					兼1
		教育社会学(小)	2前	2								兼1
		教育行財政学(小)	2後	2								兼1
		教育課程論(小)	3後	2					1			
		特別活動論(小)	3前	2								兼1
		教育方法論(小)	2前	2								兼1
		生徒・進路指導論(小)	2前	2								兼1
教育相談(小)		4後	2								兼1	
こども教育史Ⅰ		1前	2			1						
こども教育史Ⅱ		1後	2			1						
探求ゼミ(算数)Ⅰ		3前	2			1						
探求ゼミ(算数)Ⅱ		3後	2			1						
探求ゼミ(算数)Ⅲ		4前	2			1						
探求ゼミ(理科)Ⅰ		3前	2					1				
探求ゼミ(理科)Ⅱ	3後	2					1					
探求ゼミ(理科)Ⅲ	4前	2					1					
授業心理学	1前	2									兼1	
こどもの描画分析	1後	2									兼1	
教室の心理学	1前	2									兼1	
障害のある子どもたち(初等)	1後	2									兼1	
障害児の教育(初等)	3前	2									兼1	
特別支援教育実践論(初等)	4後	2									兼1	
防災・安全教育(初等)	4後	2									兼1	
ICT教育	2後	2									兼1	
生涯学習論	4前	2									兼1	
A	実践体験活動演習(小)Ⅰ	1前	2			1						兼1
	実践体験活動演習(小)Ⅱ	1後	2			1						兼1
B	初等科教育法(国語)	3後	2			1						兼1
	初等科教育法(社会)	3後	2									兼1
	初等科教育法(算数)	2前	2			1						兼1
	初等科教育法(理科)	2前	2					1				兼1
	初等科教育法(生活)	3前	2									兼1
	初等科教育法(音楽)	2後	2			1						兼1
	初等科教育法(図画工作)	2前	2					1				兼1
	初等科教育法(家庭)	3前	2									兼1
	初等科教育法(体育)	2後	2					1				兼1
	初等科教育法(外国語活動)	3後	2									兼1
道徳教育の理論と方法(小)	2前	2					1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	教員数	講義	助産	実習	他		
自然生命系科目	身体活動1	1・2・3・4前	1								兼2
	身体活動1 (障害者スポーツ)	1・2・3・4前	1								兼1
現代総合科目	身体活動2	1・2・3・4後	1								兼2
	身体活動2 (障害者スポーツ)	1・2・3・4後	1								兼1
現代総合科目	人間関係と身体表現	1・2・3・4前	2		1						兼1
	障害者・病者と共に生きる	1・2・3・4前	2								兼1
現代総合科目	ヨーロッパの宗教と文化 (ドイツ)	1・2・3・4後	2								兼1
	ヨーロッパの宗教と文化 (フランス)	1・2・3・4後	2								兼1
	現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後	2								兼1
	現代東南アジア事情	1・2・3・4後	2								兼1
	東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2								兼1
	近代日本とアジア	1・2・3・4後	2								兼1
	東アジアの宗教文化	1・2・3・4前	2								兼1
	古都の歴史と文化	1・2・3・4前	2								兼1
	仏教と美術	1・2・3・4後	2								兼1
	インドの宗教と文化	1・2・3・4後	2								兼1
	中国の宗教と文化	1・2・3・4後	2								兼1
	人と文化	2・3・4後	2								兼1
	教育学1	1・2・3・4前	2								兼1
	教育学2	1・2・3・4後	2								兼1
	ブツダに学ぶ	1・2・3・4前	2								兼1
	視察に学ぶ	1・2・3・4後	2								兼1
	部落差別と大谷派教団1	1・2・3・4前	2								兼1
	部落差別と大谷派教団2	1・2・3・4後	2								兼1
	部落差別と浄土真宗1	1・2・3・4前	2								兼1
	部落差別と浄土真宗2	1・2・3・4後	2								兼1
部落史論1	1・2・3・4前	2								兼1	
部落史論2	1・2・3・4後	2								兼1	
反カースト運動論	1・2・3・4後	2								兼1	
アイヌ民族と共に	1・2・3・4前	2								兼1	
アジア侵略と宗教	1・2・3・4後	2								兼1	
非難の承継	1・2・3・4前	2								兼1	
仏教福祉論	1・2・3・4後	2								兼1	
講義履修科目	保育実習 I	3後		4		1					兼1
	保育実習指導 I	2後		2		2					兼2
	保育実習 II	3後		2		1					兼1
	保育実習指導 II	3前		1		2					兼2
	保育実習 III	3後		2	1	1					兼1
	保育実習指導 III	3前		1	1	1					兼1
	子どもの保健 I a	1前		2							兼1
	子どもの保健 I b	1後		2							兼1
	子どもの保健 II	2前		1							兼1
	子どもの食と栄養	1前		2							兼1
	乳児保育	1後		2							兼1
	乳幼児心理学	2前		2			1				兼1
	社会的養護内容	3前		2			1				兼1
	家庭支援論	3前		2							兼1
	青年心理学	3前		2							兼1
保育相談支援	3後		2							兼1	
保育心理士実習	4後		1	1			1			兼1	
保育心理士実習指導	4後		1	1			1			兼1	
臨床心理学	3後		2							兼1	

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・担当者交代にともなう変更
「英語Ⅰ」 兼6→兼7
- ・科目の名称変更及び廃止
教職課程課程認定申請時の初等教育局教職員課の指導による変更
「教職実習Ⅰ(小)」→「教職実習(小)」
「教職実習Ⅱ(小)」→廃止
「教職実習Ⅰ(幼)」→「教職実習(幼)」
「教職実習Ⅱ(幼)」→廃止
同一名称の科目が諸課程科目に開講されていたことが判明し混乱を避けるための名称の変更
「生涯学習概論」→「生涯学習論」
- ・受講対象学年・開講期別の変更
前年度受講者の状況や要望、兼任担当者の事情等によるもの
「こどもの描画分析」 前期→後期
「発想から表現」 後期→前期
「日本語表現(入門)」 1・2・3・4→1・2
「日本語表現(実践)」 前期→後期
「PC利用による表計算入門」 2・3・4→1・2・3・4
「PC利用による表計算応用」 2・3・4→1・2・3・4
「こころの科学」 1・2→1・2・3・4
「人間理解の心理学」 1・2→1・2・3・4
「カウンセリング」 1・2・3・4→2・3・4
「東アジアの宗教文化」 前期→後期
「アイヌ民族と共に」 前期→後期
- 記載の誤りにより修正するもの
「おおたにキッズキャンパス演習Ⅰ」 後期→前期

【令和元年度】

- ・2019年再課程認定申請に対応するため追加科目として新規開設。
「特別支援教育概論(小)」、「総合的な学習の時間の指導法(小)」、「特別支援教育概論(幼)」、
「教育相談(幼)(幼児理解を含む)」
- ・2019年保育士養成課程法改正に対応するため追加科目として新規開設。
「子ども家庭支援論」、「子どもの保健」、「保育の計画と評価」、「乳児保育Ⅰ」、「乳児保育Ⅱ」、「子どもの健康と安全」、
「社会的養護演習」、「子ども家庭支援の心理学」
- ・学生の履修機会を増やすために履修クラスを拡張したことによる変更。
「人間学Ⅱ」：兼13→兼18、「日本国憲法」→「日本国憲法1・2・3」兼1
- ・受講人数の適正化、教育の質保証を図るために科目担当教員数を増加したことによる変更。
「音楽実技Ⅰ-3、Ⅱ-3」：准教授1→教授1・准教授1、「おおたにキッズキャンパス演習Ⅰ」准教授1→准教授1・兼1
「インドの宗教と文化」：兼1→兼2
- ・専任担当者の昇格(准教授→教授)による変更。
「幼児教育演習Ⅲ・Ⅳ」：教授4・准教授4・講師1→教授5・准教授3・講師1、
「教職実践演習(幼)」：教授3・准教授2→教授4・准教授1、「保育内容(健康)の理論と方法」：准教授1→教授1、
「体育(幼)」：准教授1→教授1、「卒業研究」：教授10・准教授7・講師2→教授12・准教授5・講師1、
「運動遊び指導法」：准教授1→教授1、「人間関係と身体表現」：准教授1→教授1、「保育実習指導Ⅰ」：准教授2→教授1・准教授1
- ・兼任教員の定年退職に伴う担当者変更による変更。
「人間学Ⅰ」：教授1・兼3→兼4
- ・兼任担当者の就任辞退に伴う担当者変更による変更。
「英語Ⅰ」：兼7→兼6、「教育方法論(小)」：前期→後期、「生涯スポーツ・レクリエーション活動」：後期→前期、
- ・兼任担当者の都合による開講期別変更。
「授業心理学」：前期→後期、「乳児保育」：後期→前期
- ・兼任担当者の都合による期別変更に伴い、期別のバランスをとるために変更。
「発達心理学(小)」：後期→前期
- ・前年度の誤記・修正漏れ
「学びの発見」：教授1→教授1・兼1、「小学校教育学演習Ⅰ」：教授1・准教授1・兼1→准教授1・兼2、
「小学校教育学演習Ⅲ・Ⅳ」：教授6・准教授3・講師1→教授7・准教授2・講師1、「初等科教育法(体育)」：准教授1→教授1、
「教科(体育)」准教授1→教授1、「教職実践演習(初等)」→「教職実践演習(小)」、「運動会実践演習」：准教授1→教授1、
「日本語表現(入門)」：1・2・3・4前・後→1・2前・後、「PC利用による表計算入門」：2・3・4前→1・2・3・4前、
「PC利用による表計算応用」：2・3・4後→1・2・3・4後、「こころの科学」：1・2前→1・2・3・4前、
「人間関係の心理学」：1・2後→1・2・3・4後、「生涯スポーツ・レクリエーション活動」：准教授1→兼1、
「カウンセリング」：1・2・3・4前→2・3・4後、「東アジアの宗教文化」：前期→後期、「アイヌ民族と共に」：前期→後期
- ・前年度修正した箇所の訂正
「おおたにキッズキャンパス演習Ⅰ」：前期→後期

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
166 科目	273 科目	30 科目	469 科目	166 科目 [0]	279 科目 [6]	30 科目 [0]	475 科目 [0]	・共通基礎科目「人間学Ⅱ」 を6科目増設 ・現代総合科目「日本国憲法」 を2科目増設

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{469} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	0.00 m ²	44,452.60 m ²	0.00 m ²	44,452.60 m ²	大谷大学短期大学部と 共用			
	運動場用地	0.00 m ²	29,680.12 m ²	0.00 m ²	29,680.12 m ²				
	小 計	0.00 m ²	74,132.72 m ²	0.00 m ²	74,132.72 m ²				
	そ の 他	0.00 m ²	11,464.30 m ²	0.00 m ²	11,464.30 m ²				
合 計	0.00 m ²	85,597.02 m ²	0.00 m ²	85,597.02 m ²					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	6,236.11 m ² 6,160.94 m² 6,136.29 m ²	47,260.21 m ² 46,989.56 m² 47,117.63 m ²	450.46 m ² 447.08 m² 343.66 m ²	53,946.78 m² 53,597.58 m ²	大谷大学短期大学部と 共用 教員の所属変更に伴う 変更 (元)				
	(6,236.11 m ²) (6,160.94 m²) (6,136.29 m ²)	(47,260.21 m ²) (46,989.56 m²) (47,117.63 m ²)	(450.46 m ²) (447.08 m²) (343.66 m ²)	(53,946.78 m ²) (53,597.58 m²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 科目開講実態に対応し た環境整備による変更 (30)			
	63 66 室	52 49 室	40 室	8 室 (補助職員 0人)	室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	教育学部 教育学科			11 19 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体、大谷大学短期 大学部との共用 ①学術雑誌：重複登録雑 誌を除外したため(30) ②電子ジャーナル：利用 実態を勘案し、契約更新 時に一部解約したため (30) ③視聴覚資料：再生不能 になった資料を除却した ため(30)	
	社会学部 現代社会学科	882,796[181,621] (873,727 [183,467]) (863,572 [181,405]) (846,796 [175,621])	6,561[667] (6,503 [640]) (6,479 [640]) (6,481 [647])	589[530] (115 [0]) (116 [0]) (589 [530])	2,100 (2,088) (2,078) (2,080)	30 (30)	0 (0)		
	計	882,796[181,621] (873,727 [183,467]) (863,572 [181,405]) (846,796 [175,621])	6,561[667] (6,503 [640]) (6,479 [640]) (6,481 [647])	589[530] (115 [0]) (116 [0]) (589 [530])	2,100 (2,088) (2,078) (2,080)	30 (30)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	7,604.82 m ²		588		1,115,833				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	4,857.06 m ²		柔 道 場 弓 道 場						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維持 方法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は大学全 体。 図書購入費、設備購入 費は、大谷大学短期大 学部との共用図書およ び設備として購入。 図書費には、電子 ジャーナル・データ ベースの整備費を含 む。
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	350 千円	350 千円	図書購入費	65,970千円 52,458 千円	65,000千円 63,028 千円 55,917 千円	65,000 千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	共 同 研 究 費 等	80,000千円 54,167 千円	80,000 千円	設備購入費	39,300千円 40,150 千円	8,000千円 39,836 千円 32,614 千円	8,000 千円	
		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	図書購入費および設備 購入費の増減は、執行 の見直しおよび予算額 の変更による。(30) 共同研究費等、図書購 入費および設備購入費 の減額は、執行の見直 しによる。(元)	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、寄付金、補助金、受取利息・配当金収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	大谷大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
教育学部	4	130	-	260	-	1.07	-	平成30年度	-	
教育学科	4	130	-	260	学士 (教育学)	1.07	-	平成30年度	同上	
初等教育コース	4	50	-	100	学士 (教育学)	1.20	-	平成30年度	同上	
幼児教育コース	4	80	-	160	学士 (教育学)	0.99	-	平成30年度	同上	
社会学部	4	220	-	440	-	1.07	-	平成30年度	-	
現代社会学科	4	120	-	240	学士 (社会学)	1.07	-	平成30年度	京都府京都市北区	
コミュニティデザイン学科	4	100	-	200	学士 (社会学)	1.08	-	平成30年度	同上	
文学部	4	395	-	2,630	-	1.08	-	昭和24年度	-	
真宗学科	4	60	-	240	学士 (文学)	0.89	-	昭和40年度	同上	
仏教学科	4	25	-	100	学士 (文学)	1.21	-	昭和24年度	同上	
哲学科	4	50	-	200	学士 (文学)	0.99	-	昭和24年度	同上	
社会学科	4	-	-	-	学士 (社会学)	-	-	昭和40年度	同上	平成30年学生募集停止
歴史学科	4	100	-	400	学士 (文学)	1.13	-	昭和40年度	同上	
文学科	4	70	-	280	学士 (文学)	1.21	-	昭和40年度	同上	
国際文化学科	4	90	-	360	学士 (文学)	1.09	-	平成5年度	同上	
人文情報学科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	-	平成12年度	同上	平成30年学生募集停止
教育・心理学科	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	-	平成21年度	同上	平成30年学生募集停止
大学 の 名 称	大谷大学大学院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
文学研究科										
真宗学専攻										
(修士課程)	2	20	-	40	修士 (文学)	0.75	-	昭和28年度	京都府京都市北区	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	1.55	-	昭和30年度	小山上総町20番地	
仏教学専攻										
(修士課程)	2	15	-	30	修士 (文学)	0.26	-	昭和28年度	京都府京都市北区	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.88	-	昭和30年度	小山上総町20番地	
哲学専攻										
(修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.15	-	昭和29年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00	-	昭和31年度	同上	
社会学専攻										
(修士課程)	2	-	-	-	修士 (文学)	-	-	平成11年度	京都府京都市北区	平成30年学生募集停止
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.11	-	平成13年度	小山上総町20番地	

仏教文化専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.35		昭和29年度	同上	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00		昭和31年度	同上	
国際文化専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.05		平成11年度	京都府京都市北区 小山上総町20番地	
(博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00		平成13年度	同上	
教育・心理学専攻 (修士課程)	2	8	-	16	修士 (教育学)	0.12		平成25年度	同上	
大学の名称	大谷大学短期大学部									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
仏教科	2	-	-	-	短期大学士 (仏教)	-	-	昭和40年度	京都府京都市北区	平成30年学生募集停止
幼児教育保育科	2	-	-	-	短期大学士 (幼児教育 保育学)	-	-	昭和24年度	同上	平成31年学生募集停止
大学の名称	九州大谷短期大学									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
仏教学科	2	10	-	20	短期大学士 (仏教学)	0.85	-	昭和45年度	福岡県筑後市蔵 敷	
表現学科	2	65	-	115	短期大学士 (表現学)	0.95	-	昭和45年度	同上	定員変更(15)
幼児教育学科	2	100	-	200	短期大学士 (幼児教育 学)	0.76	-	昭和45年度	同上	
福祉学科	2	20	-	55	短期大学士 (介護福祉 学)	0.37	-	平成11年度	同上	定員変更(△15)

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学部 教育学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専 教授 (学部長)		関口(鈴木)敏美 (56) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ こども教育史Ⅰ こども教育史Ⅱ 実践体験活動演習(小)Ⅰ 実践体験活動演習(小)Ⅱ 卒業研究
専 教授		塩見 知利 (65)(高) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 教育実習(幼)Ⅱ 教育実習指導(幼) 教職実践演習(幼) 保育内容(表現)の理論と方法 図画工作(幼)Ⅰ 図画工作(幼)Ⅱ 図画工作(幼)Ⅲ 卒業研究
専 教授		市川 郁子 (64)(高) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(音楽) 教科(音楽) 教職実践演習(初等) 卒業研究
専 教授		川北 典子 (60) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 児童文化 おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教育実習(幼)Ⅰ 教育実習指導(幼) 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅰ 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅱ 国語(幼) 言語表現 卒業研究
専 教授		望月 謙二 (60) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(国語) 教科(国語) 教職実践演習(初等) 卒業研究

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専 教授 (学部長)		関口(鈴木)敏美 (56) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ こども教育史Ⅰ こども教育史Ⅱ 実践体験活動演習(小)Ⅰ 実践体験活動演習(小)Ⅱ 卒業研究
専 教授		塩見 知利 (65)(高) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ (削除) 教育実習指導(幼) 教職実践演習(幼) 保育内容(表現)の理論と方法 図画工作(幼)Ⅰ 図画工作(幼)Ⅱ 図画工作(幼)Ⅲ 卒業研究
専 教授		原田 奈名子 (65)(高) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(体育) 教科(体育) 運動会実践演習 卒業研究
専 教授		市川 郁子 (64)(高) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(音楽) 教科(音楽) 教職実践演習(初等) 卒業研究
専 教授		川北 典子 (60) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 児童文化 おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教育実習(幼)Ⅰ 教育実習指導(幼) 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅰ 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅱ 国語(幼) 言語表現 卒業研究
専 教授		望月 謙二 (60) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(国語) 教科(国語) 教職実践演習(初等) 卒業研究

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専 教授 (学部長)		関口(鈴木)敏美 (57) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ こども教育史Ⅰ こども教育史Ⅱ 実践体験活動演習(小)Ⅰ 実践体験活動演習(小)Ⅱ 卒業研究
専 教授		塩見 知利 (66)(高) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ (削除) 教育実習指導(幼) 教職実践演習(幼) 保育内容(表現)の理論と方法 図画工作(幼)Ⅰ 図画工作(幼)Ⅱ 図画工作(幼)Ⅲ 卒業研究
専 教授		原田 奈名子 (66)(高) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(体育) 教科(体育) 運動会実践演習 卒業研究
専 教授		市川 郁子 (65)(高) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(音楽) 教科(音楽) 教職実践演習(小) 卒業研究 音楽実技Ⅰ-3 音楽実技Ⅱ-3
専 教授		川北 典子 (61) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 児童文化 おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教育実習(幼) 教育実習指導(幼) 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅰ 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅱ 国語(幼) 言語表現 卒業研究
専 教授		望月 謙二 (61) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(国語) 教科(国語) 教職実践演習(小) 卒業研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専 教授 (学部長)		関口(鈴木)敏美 (57) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ こども教育史Ⅰ こども教育史Ⅱ 実践体験活動演習(小)Ⅰ 実践体験活動演習(小)Ⅱ 卒業研究
専 教授		塩見 知利 (66)(高) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ (削除) 教育実習指導(幼) 教職実践演習(幼) 保育内容(表現)の理論と方法 図画工作(幼)Ⅰ 図画工作(幼)Ⅱ 図画工作(幼)Ⅲ 卒業研究
専 教授		原田 奈名子 (66)(高) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(体育) 教科(体育) 運動会実践演習 卒業研究
専 教授		市川 郁子 (65)(高) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(音楽) 教科(音楽) 教職実践演習(小) 卒業研究 音楽実技Ⅰ-3 音楽実技Ⅱ-3
専 教授		川北 典子 (61) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 児童文化 おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教育実習(幼) 教育実習指導(幼) 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅰ 保育内容(言葉)の理論と方法Ⅱ 国語(幼) 言語表現 卒業研究
専 教授		望月 謙二 (61) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 初等科教育法(国語) 教科(国語) 教職実践演習(小) 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	江森 英世 (58) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 教職入門(小) 探求ゼミ(算数)Ⅰ 探求ゼミ(算数)Ⅱ 探求ゼミ(算数)Ⅲ 初等科教育法(算数) 教科(算数) 卒業研究
専	教授	富岡 量秀 (51) <平成30年4月>
		人間学Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 仏教と教育(初等) 実践体験活動演習(幼)Ⅰ 実践体験活動演習(幼)Ⅱ おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教職実践演習(幼) 保育内容(環境)の理論と方法Ⅰ 保育内容(環境)の理論と方法Ⅱ 野外活動 卒業研究 保育心理士実習 保育心理士実習指導
専	教授	森田 裕之 (50) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅰ 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 教育原論(小) 教育学概論Ⅰ 教育学概論Ⅱ 教育原論(幼) 卒業研究
専	教授	安田 誠人 (50) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 教職実践演習(幼) 障害児保育 相談援助 卒業研究 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ
専	教授	田中 久美子 (46) <平成30年4月>
		学びの発見 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 発達心理学(小) 教職実践演習(初等) 卒業研究
専	准教授	木塚 勝豊 (55) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 児童家庭福祉 社会的養護 実践体験活動演習(幼)Ⅱ 卒業研究 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 社会的養護内容

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	江森 英世 (58) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 教職入門(小) 探求ゼミ(算数)Ⅰ 探求ゼミ(算数)Ⅱ 探求ゼミ(算数)Ⅲ 初等科教育法(算数) 教科(算数) 卒業研究
専	教授	富岡 量秀 (51) <平成30年4月>
		(削除) 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 仏教と教育(初等) 実践体験活動演習(幼)Ⅰ 実践体験活動演習(幼)Ⅱ おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教職実践演習(幼) 保育内容(環境)の理論と方法Ⅰ 保育内容(環境)の理論と方法Ⅱ 野外活動 卒業研究 保育心理士実習 保育心理士実習指導
専	教授	森田 裕之 (50) <平成30年4月>
		(削除) 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 教育原論(小) 教育学概論Ⅰ 教育学概論Ⅱ 教育原論(幼) 卒業研究
専	教授	安田 誠人 (50) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 教職実践演習(幼) 障害児保育 相談援助 卒業研究 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ
専	教授	田中 久美子 (46) <平成30年4月>
		学びの発見 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 発達心理学(小) 教職実践演習(初等) 卒業研究
専	准教授	木塚 勝豊 (55) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 児童家庭福祉 社会的養護 実践体験活動演習(幼)Ⅱ 卒業研究 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 社会的養護内容

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	江森 英世 (59) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 教職入門(小) 探求ゼミ(算数)Ⅰ 探求ゼミ(算数)Ⅱ 探求ゼミ(算数)Ⅲ 初等科教育法(算数) 教科(算数) 卒業研究
専	教授	富岡 量秀 (52) <平成30年4月>
		(削除) 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 仏教と教育(初等) 実践体験活動演習(幼)Ⅰ 実践体験活動演習(幼)Ⅱ おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教職実践演習(幼) 保育内容(環境)の理論と方法Ⅰ 保育内容(環境)の理論と方法Ⅱ 野外活動 卒業研究 保育心理士実習 保育心理士実習指導
専	教授	森田 裕之 (51) <平成30年4月>
		(削除) 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 教育原論(小) 教育学概論Ⅰ 教育学概論Ⅱ 教育原論(幼) 卒業研究
専	教授	安田 誠人 (51) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 教職実践演習(幼) 障害児保育 相談援助 卒業研究 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ
専	教授	田中 久美子 (47) <平成30年4月>
		学びの発見 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 発達心理学(小) 教職実践演習(小) 卒業研究
専	准教授	木塚 勝豊 (56) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 児童家庭福祉 社会的養護 実践体験活動演習(幼)Ⅱ 卒業研究 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 社会的養護内容 社会的養護演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	江森 英世 (58) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 教職入門(小) 探求ゼミ(算数)Ⅰ 探求ゼミ(算数)Ⅱ 探求ゼミ(算数)Ⅲ 初等科教育法(算数) 教科(算数) 卒業研究
専	教授	富岡 量秀 (51) <平成30年4月>
		人間学Ⅰ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 仏教と教育(初等) 実践体験活動演習(幼)Ⅰ 実践体験活動演習(幼)Ⅱ おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ 教職実践演習(幼) 保育内容(環境)の理論と方法Ⅰ 保育内容(環境)の理論と方法Ⅱ 野外活動 卒業研究 保育心理士実習 保育心理士実習指導
専	教授	森田 裕之 (50) <平成30年4月>
		小学校教育学演習Ⅰ 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 教育原論(小) 教育学概論Ⅰ 教育学概論Ⅱ 教育原論(幼) 卒業研究
専	教授	安田 誠人 (50) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 教職実践演習(幼) 障害児保育 相談援助 卒業研究 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ
専	教授	田中 久美子 (46) <平成30年4月>
		学びの発見 小学校教育学演習Ⅱ 小学校教育学演習Ⅲ 小学校教育学演習Ⅳ 発達心理学(小) 教職実践演習(初等) 卒業研究
専	准教授	木塚 勝豊 (55) <平成30年4月>
		幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ 児童家庭福祉 社会的養護 実践体験活動演習(幼)Ⅱ 卒業研究 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 社会的養護内容

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	山口 祥二 (57) <平成30年4月>
		古都の歴史と文化
兼任	講師	堀田 博史 (55) <平成31年4月>
		教育方法論(幼)※
兼任	講師	訓覇 浩 (55) <平成30年4月>
		障害者・病者と共に生きる アイヌ民族と共に
兼任	講師	本林 靖久 (55) <平成31年4月>
		人と文化
兼任	講師	太田 純 (54) <平成30年4月>
		英語 I 英語 II
兼任	講師	太田(北畠)智子 (53) <平成31年4月>
		総合表現演習 I 総合表現演習 II 保育実習指導 I 保育実習指導 II
兼任	講師	矢野 智子 (54) <平成32年4月>
		初等科教育法(外国語活動) 教科(外国語活動)
兼任	講師	木塚 恵子 (53) <平成30年4月>
		英語 I
兼任	講師	宮前 千雅子 (53) <平成30年4月>
		部落史論 1 部落史論 2
兼任	講師	堅田 理 (52) <平成30年4月>
		仏教と美術
兼任	講師	西田 廣和 (52) <平成30年4月>
		英語 I
兼任	講師	松田 美樹 (53) <令和元年4月>
		英語 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	山口 祥二 (57) <平成30年4月>
		古都の歴史と文化
兼任	講師	堀田 博史 (55) <平成31年4月>
		教育方法論(幼)※
兼任	講師	訓覇 浩 (55) <平成30年4月>
		障害者・病者と共に生きる アイヌ民族と共に
兼任	講師	本林 靖久 (55) <平成31年4月>
		人と文化
兼任	講師	太田 純 (54) <平成30年4月>
		英語 I 英語 II
兼任	講師	太田(北畠)智子 (53) <平成30年4月>
		総合表現演習 I 総合表現演習 II 保育実習指導 I 保育実習指導 II 学びの発見
兼任	講師	矢野 智子 (54) <平成32年4月>
		初等科教育法(外国語活動) 教科(外国語活動)
兼任	講師	木塚 恵子 (53) <平成30年4月>
		英語 I
兼任	講師	宮前 千雅子 (53) <平成30年4月>
		部落史論 1 部落史論 2
兼任	講師	堅田 理 (52) <平成30年4月>
		仏教と美術
兼任	講師	西田 廣和 (52) <平成30年4月>
		英語 I
兼任	講師	松田 美樹 (53) <令和元年4月>
		英語 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	山口 祥二 (58) <平成30年4月>
		古都の歴史と文化
兼任	講師	倉持 祐二 (57) <令和3年4月>
		総合的な学習の時間の指導法(小)
兼任	講師	堀田 博史 (56) <令和元年4月>
		教育方法論(幼)※
兼任	講師	訓覇 浩 (56) <平成30年4月>
		障害者・病者と共に生きる アイヌ民族と共に
兼任	講師	本林 靖久 (56) <令和元年4月>
		人と文化
兼任	講師	太田 純 (55) <平成30年4月>
		英語 I 英語 II
兼任	講師	太田(北畠)智子 (54) <平成30年4月>
		総合表現演習 I 総合表現演習 II 保育実習指導 I 保育実習指導 II 学びの発見
兼任	講師	矢野 智子 (54) <令和2年4月>
		初等科教育法(外国語活動) 教科(外国語活動)
兼任	講師	木塚 恵子 (54) <平成30年4月>
		英語 I
兼任	講師	宮前 千雅子 (54) <平成30年4月>
		部落史論 1 部落史論 2
兼任	講師	堅田 理 (53) <平成30年4月>
		仏教と美術
兼任	講師	西田 廣和 (53) <平成30年4月>
		英語 I
兼任	講師	松田 美樹 (53) <令和元年4月>
		英語 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	山口 祥二 (58) <平成30年4月>
		古都の歴史と文化
兼任	講師	倉持 祐二 (57) <令和3年4月>
		総合的な学習の時間の指導法(小)
兼任	講師	堀田 博史 (56) <令和元年4月>
		教育方法論(幼)※
兼任	講師	訓覇 浩 (56) <平成30年4月>
		障害者・病者と共に生きる アイヌ民族と共に
兼任	講師	本林 靖久 (56) <令和元年4月>
		人と文化
兼任	講師	太田 純 (55) <平成30年4月>
		英語 I 英語 II
兼任	講師	太田(北畠)智子 (54) <平成30年4月>
		総合表現演習 I 総合表現演習 II 保育実習指導 I 保育実習指導 II 学びの発見
兼任	講師	矢野 智子 (54) <令和2年4月>
		初等科教育法(外国語活動) 教科(外国語活動)
兼任	講師	木塚 恵子 (54) <平成30年4月>
		英語 I
兼任	講師	宮前 千雅子 (54) <平成30年4月>
		部落史論 1 部落史論 2
兼任	講師	堅田 理 (53) <平成30年4月>
		仏教と美術
兼任	講師	西田 廣和 (53) <平成30年4月>
		英語 I
兼任	講師	松田 美樹 (53) <令和元年4月>
		英語 II

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- (記入例)
- ・高瀬淳也准教授就任辞退により、原田奈名教授に変更。
 - ・共通基礎科目「人間学Ⅰ」の担当を専任教授に変更。
 - ・学科専門科目「小学校教育学Ⅰ」の担当を旧学科の兼任准教授に変更。
 - ・現代総合科目「探究基礎演習」の担当を専任教授に変更。
 - ・共通基礎科目「人間学Ⅱ」の担当を専任教授に変更。
 - ・共通基礎科目「人間学Ⅱ」の担当を旧学科の兼任准教授に変更。
 - ・現代総合科目「部落史論1・2」の担当を兼任講師に変更。
 - ・共通基礎科目「人間学Ⅰ」の担当を専任教授に変更。
 - ・現代総合科目「発想から表現へ」の担当を兼任講師に変更。
 - ・共通基礎科目「人間学Ⅰ」の担当を専任講師に変更。
 - ・学科専門科目「乳児保育」の担当を他の兼任講師に変更。
 - ・共通基礎科目「学びの発見」の担当を旧学科の兼任講師に変更。
 - ・共通基礎科目「英語Ⅰ」の担当を他の兼任講師に変更。
 - ・現代総合科目「PC利用による表計算入門・応用」の担当を他の兼任講師に変更。
 - ・学科専門科目「子どもの保健Ⅰa・b」の担当を他の兼任講師に変更。
 - ・現代総合科目「生涯スポーツ・レクリエーション」の担当を兼任講師に変更。
 - ・現代総合科目「東アジアの宗教文化」の担当を他の兼任講師に変更。
 - ・現代総合科目「生命のしくみと多様性」「自然と生物の科学」の担当を他の兼任講師に変更。

【令和元年度】

- 【専任教員の昇格】
- 井上 摩紀 准教授→教授
- 【兼任教員の追加】
- ・学生の履修機会を増やすために履修クラスを拡張したことに伴う担当者追加：
四方 保仁（兼任 准教授）、DASH SHOBHA（兼任 准教授）、赤澤 清孝（兼任 准教授）
 - ・専任担当者の担当コマ数の事情（旧学科科目の担当開講科目数の増加）により別の専任教員に担当を変更したことに伴う担当者追加：
高橋 真（兼任 講師）→山本 貴子（兼任 教授）、M. J. CONWAY（兼任 講師）
 - ・兼任担当者の就任辞退に伴う担当者変更による担当者追加：西川 幸余（兼任 准教授）、井黒 忍（兼任 准教授）
- 【兼任教員の昇格】
- 喜多 恵美子 准教授→教授（18年度訂正漏れ）、三宅 伸一郎 准教授→教授（18年度訂正漏れ）、新田 智通 講師→准教授（18年度訂正漏れ）、
藤田 義孝 准教授→教授、箕浦 暁雄 准教授→教授、藤元 雅文 講師→准教授
- 【兼任教員の定年退職】
- R. F. RHODES 兼任 教授→兼任 講師、朴 一功 兼任 教授→兼任 講師
- 【兼任教員の就任辞退】
- ・本人の都合による就任辞退：本多 義治、種子田 香、大西 慎也、伊村 大樹、木島 菜菜子、濱野 亮介、古俣 慎也
- 【兼任教員の追加】
- ・学生の履修機会を増やすために履修クラスを拡張したことに伴う担当者追加：桂 千草、蓮岡 修、近藤 雄生
 - ・就任辞退となった兼任教員の補填：村瀬 順子、岡嶋 詳二、関 浩和、松田 美樹、岡田 律子、藤澤 知親、大高 千明
 - ・2019年再課程認定申請に対応するため追加科目として新規開設したことに伴う担当者追加：倉持 祐二
- 【兼任教員の所属変更】
- 三木 彰円 兼任 講師→兼任 教授
- 【誤記訂正】
- 江森 英世 准教授→教授

【令和2年度】

- (記入例)
- ・□□講師就任辞退。後任未定であるが、平成30年10月から専任教員採用予定で公募中。
 - ・■講師辞任により、◆講師に変更。

【令和3年度】

- (記入例)
- ・平成30年10月◇講師就任。平成30年6月教員審査済み。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（A C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済み」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
10	7	2	0	19	11	6	2	0	19
(11)	(6)	(2)	(0)	(19)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	教授	准教授	講師	助教	計 (D)
11	6	2	0	19	11	6	2	0	19
[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	3 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{19}{19} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{19} = \boxed{15.78} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	高瀬 淳也	必修		小学校教育学演習Ⅲ	①	就任予定教員の家庭の事情により就任が難しくなったことによる辞退（30）			
			必修		小学校教育学演習Ⅳ	①				
			必修		卒業研究	①				
			選択		初等科教育法（体育）	①				
			選択		教科（体育）	①				
			選択		運動会実践演習	①				
			選択		基礎スポーツ・レクリエーション活動	②				
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	3	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	6	科目	計	1	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	3	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	6	科目	計	1	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{19} = 5.26\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年4月)	①大谷大学文学部文学科の入学定員超過の是正に努めること ②大谷大学短期大学部仏教科及び九州大谷短期大学福祉学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	①平成29年度の超過率が1.61倍となつてことについて、入学定員の厳格化に努め、平成30年度は0.91倍となつた。 ②大谷大学短期大学部仏教科については、その教育機能を文学部へ発展的に統合し、平成30年度より学生募集を停止することとした。 九州大谷短期大学福祉学科については、学生募集の強化に努めるも0.34倍という結果になつた。さらなる募集強化の取り組みを進めるとともに、入学定員の適正化を図るべき準備を進める。	未履行 九州大谷短期大学福祉学科については、入学者支援を含めた募集強化の取り組みを進めるとともに、入学定員の適正化を図るべき準備を進める。
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	「該当なし」		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学部 教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし。	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教務委員会「FD部会」

全学をあげて取り組む姿勢を明確にするため、教務委員会の中にカリキュラムの検討を中心とする「教務部会」と、FD活動を中心とする「FD部会」とを2007年度に設置。FD活動とカリキュラムの連携を図りながら、取り組みを進めている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

本学として必要なFD活動を検討するFD部会を年5回程度開催。

c 委員会の審議事項等

FD部会の審議及び推進事項（教務委員会規程第3条第2号）

ア 教育内容及び授業方法改善のための具体案(各授業科目における「授業計画(シラバス)」の記載内容の確認を含む。)

イ 授業評価アンケートの活用

ウ FDIに係る研究会及び研修会の実施

エ FDIに係る調査及び研究

オ その他FDに関すること。

② 実施状況

a 実施内容

FD部会活動内容

- ・ 新任教員向けFD研修会の実施
- ・ 授業評価アンケートの活用による授業優秀賞・事情確認科目の検討、事情確認対象科目担当者への確認
- ・ 授業優秀賞受賞科目の授業公開の実施
- ・ 全学的な教職員向けFD研修会の実施
- ・ 他大学・団体等との連携、他団体研修会等の参加及び部会内での報告
- ・ 「授業計画(シラバス)」の記載内容確認及び修正が必要な科目の内容修正依頼

b 実施方法

全学的は研修会や授業公開については、非常勤講師も含め実施を告知。対象者が限定されるものについては、原則、対象者全員参加として呼びかけている。

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
- ・ 新任教員向けFD研修会（2018年6月27日実施）
 - ・ 授業評価アンケートの活用（2018年10月2日・2019年3月8日FD部会にて検討・決定）
 - ・ 授業公開の実施 前期（2018年6月20日～7月13日に開催：対象科目4科目）
後期（2018年11月14日～12月24日に開催：対象科目3科目）
 - ・ 教職員向けFD研修会の実施 前期（2018年7月18日開催、「在学生満足度アンケート調査の分析とFD活用」）
 - ・ 教職員向けFD研修会の実施 後期（2018年11月21日開催、「シラバス作成について」）
 - ・ 他大学・団体等との連携、他団体研修会等の参加及び部会内での報告（FD部会にて随時報告）
 - ・ 「授業計画（シラバス）」の記載内容の確認（2019年2月実施）
 - ・ 教職員向けFD研修会については、研修会内容をビデオ撮影し、学内ネットワークにて動画配信を実施（非常勤講師を含め本学教職員限定配信）
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
- 研修会や懇話会を開催することにより、本学学生の実情を把握し、本学の教育理念や育成する学生像の共有を図り、継続的な授業改善に取り組むことの意識付けを行っている。
- 個々の授業担当者の資質向上を図るために、「学生による授業評価アンケート」を活用し、半期ごとの振り返りをおこなっている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

「学生による授業評価アンケート」を、本学の内部質保証に係るFDとして、本学の教育システムの不断の点検・改善に役立てると同時に、授業担当者が日頃の教育活動の成果を確認し、今後の授業改善の参考資料として活用するために、全学を対象に実施している。

前期については、6月下旬から7月上旬に実施。後期については、12月上旬から12月中旬にかけて実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケート結果については、各授業担当者に科目ごとに報告される。アンケート内容は、Ⅰ. 授業について、Ⅱ. 授業における受講生の取り組みについて、Ⅲ. 総合評価、Ⅳ. 担当教員が設定する独自の設問、Ⅴ. 自由記述からなっており、数値やグラフにして提供している。

受講生に対しては、学内ネットワーク上に科目ごとの評価結果を公開し、自由に閲覧できるようになっている。また、大学全体及び学部ごとの評価結果を大学HP上に公開し、社会一般からの閲覧に供している。

公開の時期は、ともに前期が10月頃、後期が3月頃に公開をおこなっている。

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

建学の理念を仏教、殊に浄土真宗に据え、いかなる時代・社会の状況においても、自己と人間の課題を深く見つめ、人間の立脚地を考えつづける姿勢をその学びの根幹においてきた。つまり、自己の信念の確立を建学の理念として掲げ、学修、研究をすすめてきた。その達成の状況は、建学の理念、教育目標のもとに各方針、教育内容やその方法等を体系的に関連づけた体制として構築し、各学部・学科、各研究科・専攻とも学生に対する教育、研究指導を完全に実施しており、そのことは、平成27年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受け、同協会の大学基準に適合していると認定された。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和元年7月下旬頃 公表予定

b 公表方法

・内部質保証委員会委員、各学部・学科及び各研究科・専攻の長、並びに事務部長に報告書を配付。
・大学ホームページ上に公開（令和元年7月下旬頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和4年度に、公益財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受ける予定で準備を進めている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 7月下旬頃を予定 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

○教務委員会規程

2002年3月4日 制定

(設置)

第1条 大谷大学及び大谷大学短期大学部(以下「本学」という。)に、教育・学生支援担当副学長の教務に関する補佐機関として、教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 委員会は、教育推進室と連携し、教育課程及び教育方法等の改善を図るとともに、FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を推進し、もって大学教育の充実と発展を図ることを目的とする。

(審議及び推進事項)

第3条 前条の目的を達成するために、委員会に部会を置き、次の事項について審議し、その推進にあたる。

(1) 教務部会

- ア 教育課程改善のための具体案
- イ 教育課程に付随する諸制度(成績評価、単位認定、進級、登録等)
- ウ 開講科目、開講形態及び履修方法
- エ その他教務に関すること。

(2) FD部会

- ア 教育内容及び授業方法改善のための具体案(各授業科目における「授業計画(シラバス)」の記載内容の確認を含む。)
- イ 授業評価アンケートの活用
- ウ FDに係る研究会及び研修会の実施
- エ FDに係る調査及び研究
- オ その他FDに関すること。

(構成)

第4条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 委員長 1名
- (2) 部会長 2名
- (3) 委員 若干名
- (4) 学生支援部事務部長
- (5) 学生支援部教務課長

2 委員長、部会長及び委員は、本学専任教育職員のうちから教育・学生支援担当副学長が推薦する者を学長が委嘱し、任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

3 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(所管)

第5条 委員会に関する事務の所管は、学生支援部教務課とする。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が決定する。

付 則

この規程は、2002年4月1日から施行する。ただし、第4条第1項第3号に定める「教務部事務部長」は、2002年5月31日までは、「教務部教務課長」と読み替えるものとする。

付 則

この規程は、2007年2月13日一部改正し、2007年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2008年6月18日一部改正し、2008年6月1日に遡及して施行する。

付 則

この規程は、2012年2月1日に一部改正し、2012年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2013年2月25日に一部改正し、2013年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2015年3月11日に一部改正し、2015年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、2016年3月10日に一部改正し、2016年4月1日から施行する。